

〔3〕 生活単元学習

(1) 基本的な考え方

生活単元学習がからだづくりに果たす役割は、④直接からだを育てていく、⑤意欲・エネルギーとして間接的にからだを育てていく、⑥育った力を総合的に活用したり評価したりする場としての役割があることは紀要10集で述べている。

生活単元学習でこの三つの役割を果たしながら小学部の子どもたちのからだづくりを押し進めていくためには、子どもたちの発達段階から考えてまず興味・関心を持たせたい、次に断片的でもいから意欲を持って取り組ませたい、短時間でいいから集中させたいという願いを持った。そのためには、①学習のでき方や出来高を追求せず取り組み自身の楽しさを捉えていく、②出来たという喜びを大切にするために「できる状況」を作っていく、③自分から活動を求めていったり活動しきれるということが難しい子どもたちであるので教師が活動を援助してあげることによって楽しさを味わわせることも大切であると考えた。そこで生活単元学習の中の遊び活動を更に取り入れることによって生活単元学習やからだづくりにより意欲的に取り組めるのではないかと考えた。そこで教師の援助や手立てを受けて遊び活動をすすめていった「七夕発表会」と「運動会」の合同学習の実践を中心に述べてみたい。

(2) 実践1 「七夕発表会」〔造形遊びを中心とした実践例として〕

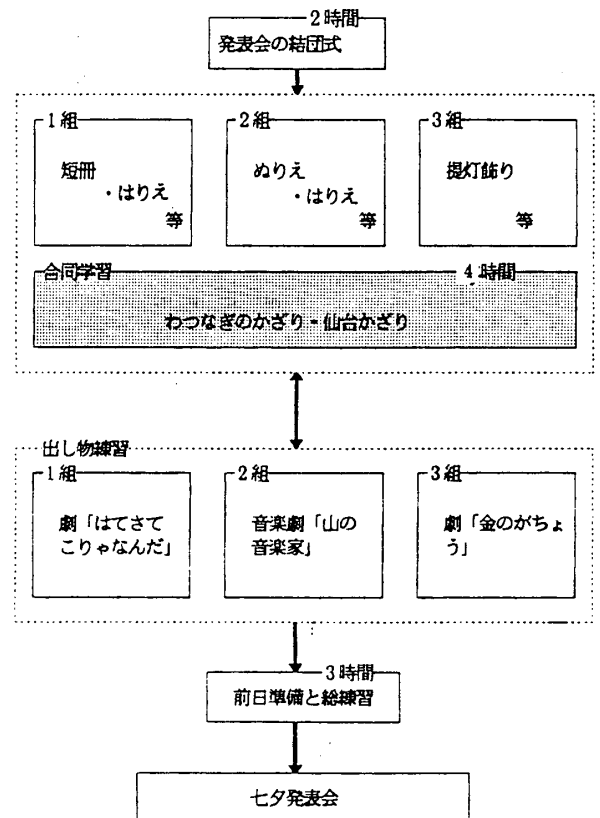
① 単元設定の理由

七夕発表会は1学期の学校生活全般の成果を小学部の全員の児童や保護者に発表する発表会であると同時に、日本に古くから伝わる「七夕祭り」の行事を祝う会としての小学部の恒例の行事である。本単元はその行事にむけて準備を中心にして学習をすすめていくものである。その学習は出し物発表のための劇活動とたなばたまつりのための造形活動を中心に構成されている。

② 本単元がからだづくりにいなる主な役割

- ① 造形遊び等によって微細な動きを育てていくことができる。
- ② 題材、活動内容が豊富で子どもたちに適した遊び活動が選択しやすく、興味や関心を起こさせることができる。また個に応じた配慮をすることによって意欲的な取り組みが可能になる。

七夕発表会学習の流れ



③ 合同飾り作りに於ける実践

前頁の学習の流れの斜線部分の二時間の学習を次のように展開していった。この時の指導の手立てとして

㉑ 個人目標をたてることによって個人の課題をしっかりとみつめ個に応じた配慮をしていく。

㉒ 「できる状況」づくりに努め子どもたちにとって無理のない取り組みにしたい。

(援助, 声かけ, 補助具)

㉓ できるだけできあがるものに見通しを持たせ、協力しできたことへの喜びを持たせる。



援助を受けて作るY・N

合同飾り作りの流れ【わかざりの飾り】(2時間)

1. わかざりの飾りの話を聞き たなばたさまの歌を歌う。	1. 全員で一つの大きなわかざりを作ること たくさん作らなければならないことを 知らせる。歌って雰囲気を出す。
2. かざりを作る。	2. 個別の指導、声かけ、援助を行なう。 できるだけ集中して取り組めるような 雰囲気を作っていく。長さを比べるビ ニールテープを用意し長さを計りなが ら作る活動もできる子にはさせる。
3. 評価をする。	3. 一人ひとりが出来高を発表しながら本 時の取り組みの評価をさせる。
4. 組み立ててもらいその前 で歌う。	4. おおよその組立をして完成に近い作品 として組み立て出来上がりを予想させ る。

【仙台かざり】(2時間)

1. 七夕の飾りの話を聞く。 たなばたさまの歌を歌う。	1. 全員で一つの大きなかざりを作ること 作り方を簡単に説明する。
2. 飾りを作る。 ①形を切る。	2. できるだけ集中して取り組めるような 雰囲気を作っていききたい。 個に応じた作業を以下から選ぶ。 ○形を写し切る○書いてある形を切る ○星を折って切る ○直線を切って形を作る(星型) (形も丸・四角・三角・星型とする。) 5×50cmの和紙の短冊と切った形を交 互に3枚ずつつなぐ。 できる子には色の工夫も指導する。
3. 評価をする。	3. 一人ひとりが出来高を発表しながら本 時の取り組みの評価をさせる。
4. 組み立ててもらいその前 で歌う。	4. 自然に揺れる飾りを見せて出来たこと の喜びを持たせたい。

	わつなぎに関する経験	わつなぎの合同学習で 本児に望む姿	目 標	目標に対する教師のでたて 援助・言葉かけ・自助具
M・M 1年	○今まで殆ど経験がない。 ○模倣によりらしきものを作る。 ○仕方を説明するとほぼできた。	落ち着いて少しでも 長く続けようとする。	○途中中断してもよ いから30個はつな げる。	○付け方等はその都度指導する。 ○張り合わせる場所に印を付け ておく。 ○出来たことを褒めやる気を起こ させたい。
Y・N 1年	○経験なし。 ○やり方が分かっていない。	先生と一緒に少しで も作って経験させてい く。	○先生といっしょに 作って出来たこと を喜ぶ。 ○指示されたところ にのりをつける。	○先生と一緒に。 ○その都度指示して。 ○出来たことを大袈裟にほめる。

氏名	取り組みの様子	評価	次の学習の課題
R・H 5年	見通しを持ち作業に取り組んだ。のりの使い方輪の合わせ方共にきれいにできた。長さを意識して何回も見本の長さに合わせようとするなど探索的な活動も頻繁に見られた。	○	○もう少し創造性の余地のある作品に今度はチャレンジさせたい。 ○飾りづくりの紙を何種類かの大きさ、長さに切るところから始めたい。 ○何種類かの長さの輪飾りを作るという設定にして、長さを比べる操作活動を増やしたい。
H・M 5年	自分なりのやり方を理解し、取り組むことができる。のりの使い方、輪の合わせ方がきれいにできた。つないだ輪をどのように生かすか見通しができていないため作業意欲はあまりなく手が止まることが多かった。	△	○この活動をもう少し経験させたい。 ○切る活動を盛り込みこの活動を意欲づけにして貼る活動にも取り組ませたい。 ○切る活動においては、かなり難度が高いものが本児にはよいと思われる。
H・O 3年	ほとんど一人で長さ1m程度の輪つなぎを作ることができた。輪のつなぎかたは少々雑であった。途中声かけをしないと作業を中断してしまうことがあった。	○	○輪のつなぎ合わせが雑なときがあるため、できるだけ丁寧につなぎあわせることが出来るようにしない。 ○声かけがなくても途中辞めをしないで作業に取り組んでいくことが課題である。



援助を受けて作るY・N



一人で続ける
一年生のM・M



長さくらべをするR・H



慣れた手つきで
取り組むくH・M

④ 単元「七夕発表会」を終えて

子どもたちの自由な発想に支えられての遊び活動ではなかったが、持てる力を使って意欲的に取り組み一つの物を作り上げできたという喜びを持ったという意味においては遊び活動として評価できると考える。ただし、まだ七夕発表会や作業に対して見通しが持てない1年生の子どもたちに対してはまだまだ配慮していかなければならない部分も多いが、このような経験の中から学習していくことも大切であると考え。このような造形遊びを「クリスマス会」や「6年生を送る会」で取り入れていき繰り返しながら発展していく学習として構成したい。

(3) 実践2 「運動会」




① 単元設定の理由

本単元は本校運動会にむけた行事単元である。種目練習等の運動の技能の向上の他に、全校の児童生徒のたてわりの班での応援合戦等における協力や仲間意識などの社会性等も養うことができる単元である。

② 本単元がからだづくりになう主な役割

- ① 種目練習等で直接からだを育てていく。
- ② 演技に使う道具づくりをすることによって種目への参加意欲を増し、間接的に育てていく。
- ③ リズム・サーキットで行ったぶらさがりを種目に取り入れることによって、リズム・サーキットでつけた力を応用的に活用したり評価したりする。

③ 学習の流れ

<p>〔小学校の結団式〕 運動会にむけて、小学校の結団式をする。 班別の応援合戦をする。 種目について知る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 運動会はたてわりの班別で競うことを知り、班の意識を高め、仲間であるという意識を持たせる。 ● 「おさるのかごや」という種目があること、この種目はリズム・サーキットでつけた力を披露する場であること、そのための道具作りをすることを知らせ、運動会に見通しと意欲を持たせる。 
<p>種目練習</p>	
<p>〔おさるの人形づくり〕</p>	 <p>各差別のくみに別れてベニヤ板に描かれたお猿(1.2×1m)の色塗りをする。 このお猿は以後、リズム・サーキットやクラス学習等で使われることになる予定である。</p>
<p>種目練習</p>	
<p>〔がんばったかい〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● どの班もどの子どもががんばったことをお互いに認めあい、満足感を持たせながら、次の連合運動会につないでいく。 

④ 「運動会」の単元を終えて

教師が意図して組み立てた単元構成であったが、子どもたちは結団式や「頑張った会」をしたことによってかなり見通しを持って単元「運動会」に取り組むことが出来た。お猿作りは集団に参加しにくい子どもたちも遊びとして皆の中に入って作業することができた。その結果としてお猿作りという作業的な遊びを通して運動会への参加意欲もわずかではあるが高められてきたと思われた。

(4) 反省と今後の課題

入学したばかりの1年生から6年生までと年齢や学習の経験や見通しにかなりの開きがありまた個人差が大きい小学部の合同学習の集団では、更に学習の題材や課題について考えていかなければならない。広範囲に及ぶ生活単元学習の単元の組み立てを他の領域との関連を持たせながら精選していかなければならない。また、遊びきることが難しい子どもたちをいかに遊ばせるかという遊びの研究をしていかなければならない。